

歴史探訪 羈旅日和 塩屋崎灯台

塩屋崎灯台は、福島県いわき市平薄磯海岸の海拔 73 メートルの断崖に立つ白亜の灯台。比較的变化の少ない福島県の海岸線で、美しい白砂青松の海浜が連なる「いわき七浜」で少し突出した岬の塩屋崎。福島県の郷土史に「塩屋崎は東海一の難所にして、台下の険崖から一海里半余に暗礁が棋布し、外国船、日本船の沈没せるもの多し」と記され、古くは 1850 年代の安政年間にこの岬にかがり火を焚き、航海の目印にしていたと伝えられている。

灯台は、西洋の技術を取り入れて、1899 年（明治 32 年）に建設され初点灯するも、1938 年（昭和 13 年）の福島県東方沖地震でレンガ石造の灯台が大破したため、1940 年（昭和 15 年）3 月 30 日に現在の塔形白色の鉄筋コンクリート造に生まれ変わった。

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日の東日本大震災で消灯するも、約 9 カ月後には点灯復旧し、灯台の一般公開が再開されたのは 2014 年（平成 26 年）2 月。

これまで、いくつもの苦難を乗り越えてきたこの灯台の美しい雄姿を一目見ようと、多くの見学者が県内外を問わず足を運んでいる。現在も沖合 40 キロの海上まで光を放ち、船の安全を守っているこの灯台は、人々に愛され続けている。

塩屋崎灯台アラカルト

灯台の手前には全国で 10 番目の資料館として開設された「灯台資料展示室」があり、写真と模型を使って、海上交通安全に寄与している航路標識をわかりやすく紹介している。また、敷地内には「霧信号用ラッパ」と「浮標用ベル装置」も展示されている。

喜びも悲しみも幾歳月

塩屋崎灯台の麓には、灯台守夫婦の生涯を描いた映画「喜びも悲しみも幾歳月」の主題歌「俺ら岬の灯台守は」で始まる歌詞を刻んだ記念碑がある。映画は、灯台職員の手記をもとに作られ、主演は当時スターだった佐田啓二と高峰秀子で、灯台職員の半生を描いたこの作品は、日本中で大反響を呼んだ。木下恵介監督の代表作。

美空ひばり・みだれ髪之歌碑

国民的歌手「美空ひばり」さんが、1987 年（昭和 62 年）12 月に塩屋崎をテーマにした「みだれ髪」を発表した。その翌年 10 月にその歌碑が建立され、現在は遺影碑が並びに建立され、いわき市と縁のある人物として紹介されている。

「海員だより」